

◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。 **北上川と共に生きた平泉文化** 第9弾 —平泉文化を支えた母なる川・北上川—

北上川が運んだもの

パート2
豊富な金で国内外の文化を導入、独自の平泉文化を築く

中国から平泉へ直接の交易もあったと考えられています。

中尊寺の文化財

奥州藤原氏は、「浄土」をこの世に再現するという独特の文化を築くため、京都をはじめ各地の文化を取り入れました。中尊寺には平安時代後期の第一級の文化財が数多く伝えられています。建築物を除く国指定文化財は、国宝7件、重要文化財13件、総数3,000点以上にもものぼります。



中国から平泉へ

奥州藤原氏は中国との交易も行っていましたが、必ず京都を通したものではありませんでした。その交易で多くの文物や陶磁器が輸入されました。



金色堂内陣中央壇

平泉の出土品

平泉では、柳御所遺跡をはじめとする数々の遺跡から多くの出土品があり、平泉より遠く離れた場所で作られた物も、たくさん出土しています。



平泉の仏像

平泉にある多くの仏像のほとんどは、京都とつながりがあると考えられています。

- ◎京都で造られた仏像が、舟運により平泉に運ばれてきた。
- ◎京都から平泉に、仏師を招いて仏像を造られた。
- ・・・などの諸説があります。



じょうろくぶつざそう
丈六仏座像
あみだによらい やくしによらい
(中央が阿弥陀如来、両脇が薬師如来)



写真:中尊寺所蔵

仏像のことは実ははっきりわかっていないのだよ。

金色堂の隣にある講衡蔵に安置されている仏像は「丈六仏」と呼ばれており、「一丈六尺(約4.8m)の身長 of 仏様」という意味です。この仏様は座っているのですが、座高は身長 of 半分くらいですが、それでも約2.4mほどもあります。

※北上川学習交流館 あいぽーと展示資料より

